# 緊急ワークショップ　「アラブの春」再来?
## ――スーダン、レバノン、そしてイラク

2019年4月、前年末から反政府抗議デモが高揚していたスーダンで、30年間にわたり権力を独占してきたバシール政権が倒れた。半年後の10月1日、イラクの首都バグダードで数千人の若者が反政府デモを開始、以降数百万の群衆が首都中心のタハリール広場を占拠して治安部隊と衝突を続けている。同じ頃、レバノンではSNSなどを対象とした新たな課税政策への反発から、大規模な反政府抗議活動が展開された。民衆の自由で平和なデモと政府側による弾圧、それに対するデモ隊の生き生きとした自己発現の様子は、8年前のいわゆる「アラブの春」を彷彿とさせる。本ワークショップでは、アラブの民衆パワーが今再び開花した背景を探り、アラブ「革命」の行く末を論じる。

**日時：12月15日（日）14:00-17:00**
**場所：明治大学リバティータワー7階1076教室**

司会：横田貴之（明治大学　情報コミュニケーション学部）

14:00 開会の挨拶

報告Ⅰ　黒木英充（東京外国語大学AA研）
「レバノン、160年越しの変革なるか―宗派体制・宗派主義の行方」

報告Ⅱ　酒井啓子（千葉大学　法政経学部）
「国民として立ち上がる―イラク10月革命と若者」

報告Ⅲ　栗田禎子（千葉大学　文学部）
「スーダンの民衆革命
－中東・アフリカにおける変革の展望と現代世界にとっての意義」

15:45-16:00 休憩

16:00 討論　岡崎弘樹（日本学術振興会特別研究員PD）
鷹木恵子（桜美林大学　リベラルアーツ学群）

パネルディスカッション・質疑

**共催: 文科省科学研究費補助金　新学術領域研究「グローバル関係学」（計画研究B01「規範とアイデンティティ」、B03「広域ネットワーク」）／同　基盤研究B「現代中東における政治と宗教－「アラブの春」以降のムスリム同胞団を事例に」／東京外大AA研基幹研究「中東・イスラーム圏における分極化とその政治・社会・文化的背景」**

会場住所：東京都千代田区神田駿河台1-1
入場：無料（開会時間10分前から開場）
お問い合わせ：千葉大学グローバル関係融合研究センター
E-mail: glblcrss@chiba-u.jp